

Fusyo Collaboration letter

10月31日 No.30 文責 廣田 秀俊



何算で解いていく？どうすればできるかな？

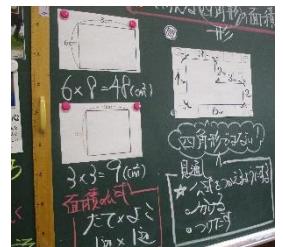
「どんな面積も求めることはできるかな？」先生の問いかけにもちろんと
いう表情で反応する子供たち。4年生の教室で算数の授業が始まりました。

掲示された長方形と正方形の図形を見て、瞬く間に答えを導き出す姿があり
ました。それぞれの公式を使うことで、解答へとすすんでいくことができます。



次に出てきた図形は少し形が違いました。その図形を見て「いける！」「難しいかも…」などの
つぶやきが聞こえます。これまでの問題ではすぐ答えが出ていたけれど、今度は形が中途
半端なためすぐには答えが出てこないようです。どうするのかを課題として取り上げ考えます。
【課題】四角形でない形の面積を求めるのはどのようにすればよいか。子供たちの声で課題が
決定しました。見通しとして公式を使えるようにしようという声があがりました。図形を見て、
子供たちからはキーワードとして<分ける><つけたす>の言葉も出てきました。

配られた図形の用紙を使って、次々と解き方を生み出す様子が見られます。
「もうちょっと時間が欲しい」という声とともに、できたことを自然と友だちと交流
を始めていました。答えを導き出す方法をみんなで確かめ合いました。図に線を
書き込むことで9通りの方法を発見しました。



一つ一つの方法に反応が聞こえます。「あ～なるほど」「それが1番正確」「え？そんなやり方があるの」「○○さんのやり方は下につけたす方法、●●さんの
やり方は分ける方法」いろんな解説もしてくれます。



“公式が使える”というキーワードから、大きく三通りの方法を導き出していくこと
ができました。①分けてたす②移動する③つけたして引く。③の方法の説明は、「公式
を使えるようにつけたした。だからつけたした分だけ減らしていく」というものでした。



まとめとして『四角形ではない形の面積をもとめるには、方眼を使ったり、分けて
たり、移動させたり、つけたして引いたりすればよい』という結論が出ました。

ふり返りでは「新しい意見を聞くことができた」「もう少し深めていきたい」「
求め方がたくさんあった」「友だちに教えてもらえた」など、たくさんの声を
聞くことができました。今後、教科書の問題など、他の形にも使えるのか、
様々な問題にチャレンジしていきます。

